

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和2年1月14日 No.16



2020年になりました。オリンピックイヤー、たくさんの感動がある1年だと思います。パラリンピックもあるので、障害のある人たちに、今まで以上に関心が向けられ、多くの支援の機会や社会参加の場が増えるようになってよと思います。深谷はばたき特別支援学校も、地域に向けて多くの情報提供や相談の場となれるように努力いたします。

特集 「言語理解」とコミュニケーション

WISC-IVの検査で、言語理解の弱さを指摘されたお子さんがいると思います。また、WISCなどの検査を取らなくても、語彙の少なさ、説明する力の弱さ、作文などが書けないなどの言語面での問題に気付くことがあると思います。こういった言語理解の力が、子どものコミュニケーションの発達にどのような影響を及ぼすのか考えていきましょう。

1 「言語理解」とはそもそもどういう力のことか

WISCでは「類似」「単語」「理解」「知識」「語の推理」の検査項目から測定します。言語的な知識に関する力、言葉を聞いて理解したり、説明したり、考えたりする力を「言語理解」と捉えて評価しています。

類似…2つの言葉を口頭で提示し、それらがどのように類似しているかを説明させる。
単語…言葉を読み上げその意味を答えさせる。
理解…日常的な問題の解決や社会的ルールなどについての理解に関する質問をし、それに口頭で答えさせる。
知識…一般的な事柄に関する知識について質問し、口頭で答えさせる。

2 「言語理解」の力が弱いと、学校では、どんなことが起きるか

(1) 先生の話がわからない。

語彙が少ないと、何を話しているのか内容が理解できなくなります。難しい言葉や、抽象的な言葉の理解ができないこともあります。知っている語を手がかりに理解しようとするので、説明とは違う行動を取ったり、説明の内容を誤解したまま受け止めることがあります。自分勝手と思われてしまうことがあります。また、情報量が多いと、覚えきれなくなり、話の最初の方しか覚えていなかったり、時として「聞いていたの」と言われてしまうことがあります。

授業の内容がわからなくなり、学習の遅れが出てしまいます。授業がつまらない時間になってしまい、消しゴムで遊んだり、周りの友だちにちょっかいを出すようになってしまいます。授業に集中ができないとか、不真面目だと思われてしまいます。

また、友だちとのコミュニケーションもうまくいけなくなり、「言った」「聞いていない」でケンカになってしまうこともあります。

(2) 説明がうまくできない。

語彙が少ないと、自分の気持ちを表すのにぴったりの言葉がなかなか出てきません。「えーと」「あの一」が多くなったり、「あれが」とか「クルンっていうやつ」とか身振りを使って説明をしようとする。聞かれている内容はわかっているけど、質問に対して適切に答えられないこと

が生じてしまいます。「どうして〇〇しなかったの」と問い詰められて、うまく説明できず、とっさに嘘をついてしまうこともあります。

また、「て・に・を・は」などの助詞が適切に使えないと、「誰が言ったの」など、主体や客体がわかりにくい説明になってしまいます。

このような説明をしていると、どうしても話が回りくどくなってしまいます。一生懸命に伝えようとしても「何を言っているのかよくわかんない」「後で聞くよ」と言われてしまうようになります。コミュニケーションに自信をなくしてしまいます。友だちとのコミュニケーションのように、短時間で早いやり取りがある場合には、口で説明するよりも大声を出してしまったり、手が出てしまうことが見られるようになります。

(3) 言葉で考えることができない。

抽象的な思考が難しくなります。「〇〇さんの気持ちになって考えてみてよ」「もし〇〇だったらどうするの」などは、なかなか考えることができません。「そこまで言わないとわからない」という状態になってしまいます。後先のことを考えることが難しくなってしまいます。

3 コミュニケーションが育たないとどんなことが困るか

人は、発達の過程で他者とコミュニケーションを取りながら次のようなことを学んでいきます。

- * 相手とのやり取りを通して、「こういう態度を取ると人からこんな風に見られる」「こういう行動を取ると、みんなは喜んでくれる」などの体験を通して、「自己理解」ができるようになります。自己理解が育たないと、自分のことは棚に上げて人の欠点ばかり指摘したり、プライドばかりが高いと思われたり、やってもいないのに自信が持てないなどの問題が生じます。また、自分の実力や希望とは違う進路を選んでしまうこともあります。
- * 相手とのやり取りを通して、適切な自己主張や妥協を学びます。ここが不十分だと、ネットなどで一方的に相手を攻撃したり、嫌なことも断れないという問題が生じます。
- * 相手とのやり取りを通して、相手のよさや相手が頑張っていることに気付けるようになります。ここが育たないと、相手の気持ちを思いやれない言動をとる問題が生じます。

4 「言語理解」の力を育てるために（実態により支援内容は異なります。一例です。）

(1) 言語の弱さを理解した支援

- ・ 漢字にはルビを振り、読みやすく、意味を理解しやすくします。
- ・ 言語によらない説明をします（言葉に代わる手段の活用。絵カードや見本など）。
- ・ 説明の仕方の工夫（わかる言葉で、ゆっくり、簡潔に伝える。）
- ・ 作文は写真を提示し、考える手がかりにします。
- ・ 英語の先生や、音楽の先生は、聴覚的な力が優れていることが考えられます。速いペースでの授業にはなかなかついて行けないかもしれません。「何度言ってもわからない」と感じるものがあつたら、「もしかしたら、自分は何度言っても伝わらない伝え方しかできていないのでは」とかかわりを振り返ってみることも大切です。

(2) 言語の力を育てる

- ・ 気持ちを表す言葉を育てます。「きもい」「うざい」などで済まらず、「そういうのはイヤだ」「ほめてもらったけれど恥ずかしかった」などが伝えられるようにしていきます。
- ・ 想像力を育てます。「明日は何を頑張ろうか」というところから、少しずつ「運動会では何を頑張りたいか」「将来何になりたいか」を考える力を付けていきます。1日1～2行でよいので、振り返りもできるようにします。目標に向けて頑張れるようになると、友だちの頑張りが気持ちにも気付けるようになります。

